

[成果情報名] 大型クラゲの出現状況と予測

[要 約] 大型クラゲは 2019 年以降増加し漁業障害も生じており、引き続き監視が必要である。山形県沿岸における出現の予測には西方海域との出現時差の情報が参考になる。

[部 署] 山形県水産研究所・海洋資源調査部

[連絡先] TEL 0235-33-3150

[成果区分] 政

[キーワード] 大型クラゲ、出現状況、漁業被害

[背景・ねらい]

夏から冬にかけて日本周辺海域に来遊する大型クラゲ（エチゼンクラゲ）は漁具の破損など様々な漁業障害を引き起こすことから、本県沿岸における近年の出現や被害等の関係情報を示し、注意喚起とともに今後の対策に資する。

[成果の内容・特徴]

- 1 大型クラゲは 2009 年の大量出現以降ほとんど収束していたが、2019 年以降増加している（図 1）。
- 2 入網時期は、定置網 8～11 月、ごち網 8 月、底びき網：9～10 月であった（図 2）。
- 3 2020～2021 年は主に底びき網で漁具の破損や漁獲物の品質低下などの障害が発生した。漁業者は対策網^{*}の使用等により対応した（表 1）。
- 4 本県を含む北部日本海の出現は山陰海域での入網状況が判断の目安になる。また、本県沿岸への来遊時期の予測には、九州海域から 61 日後、山陰海域から 40 日後、石川県海域から 35 日後等など過去の西方域との出現時差の情報が参考になる。（表 2、図 3）

*）底びき網の内部に取り付けた仕切り網に沿ってクラゲを誘導し、身網の上部に設けた開口部からクラゲを排出するなどの構造により、クラゲの入網被害を軽減する漁具の名称。（参考：平成 17 年度新しい技術の試験研究成果 底びき網漁業における大型クラゲ対策網の魚介類の保持率（指））

[成果の活用面・留意点]

- 1 本成果の一部は、漁業者及び県漁協に情報提供済み（2021 年 12 月）。
- 2 水産研究所では大型クラゲ情報（東シナ海、対馬海峡および日本沿岸水域の出現状況、山形県沿岸の入網状況、水産研究・教育機構による移動予測結果など、6～11 月）を漁業者に向けて発信しており、今後も継続する。

[具体的なデータ]

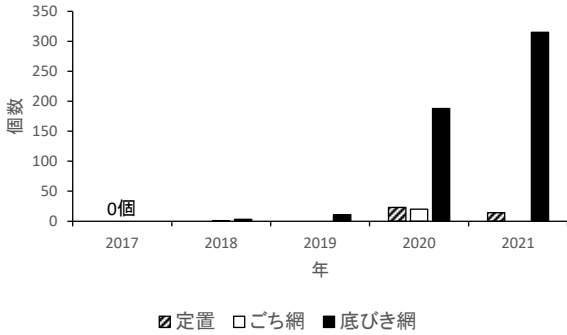


図1 大型クラゲ入網個数の推移

標本船からのFAXと漁業者への聞き取りにより確認されたもの

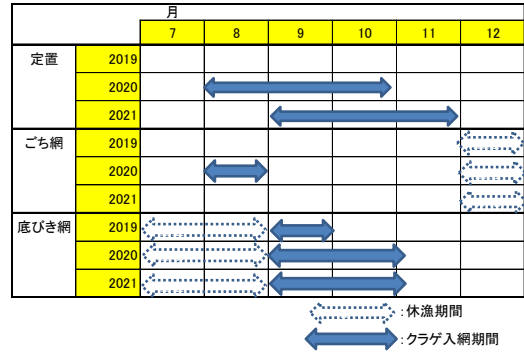


図2 大型クラゲの入網時期

表1 大型クラゲ来遊状況と県内の漁業被害

		2019	2020	2021 (年)
(全国)	来遊状況と特徴	・7月に九州、島根県で1000個体以上の出現。 ・8月に極めて急速に衰退し、10月中に収束。	・7月に長崎県、島根県で少量確認。 ・8月には日本海全体で確認。 ・9月は日本海全域の出現が持続。10月中に収束。	・7月に長崎県、島根県で確認。 ・8月に長崎県、島根県で1000個体を超える出現。 ・9月は数量的には落ち着くが、北部日本海に拡大。 ・10月は北部日本海を中心に出現。11月には収束。
(本県沿岸)	特徴		・沖合より沿岸での入網が多かった。	・沖合まで分布が広がっていた。
	入網件数 定置網	・入網情報なし。	・14件 (1~10個/日)	・8件 (1~4個/日)、
	ごち網	・入網情報なし。	・6件 (1~10個/日)	・入網情報なし。
	底びき網	・8件 (1~2個/日)	・73件 (1~25個/日)	・48件 (1~24個/日)
	漁業障害	・殆どなし	・漁具の破損、漁獲物の品質低下、漁労作業量の増大などの障害が発生。 ・底びき網漁業者は対策網等でやりくり。	・刺胞毒による皮膚の炎症、漁獲物の品質低下、漁労作業量の増大などの障害が発生。 ・底びき網漁業者は対策網等でやりくり。

表2 北部日本海における出現の目安と山形県沿岸の出現時差

項目	内容
北部日本海における出現の目安 [*]	●島根県海域と若狭湾での出現、能登半島沖底びき網での入網が出現の判断データになる。 ●山陰海域でまとまって出なければ安全。
山形県沿岸の出現時差	●九州海域から61日 (±13日)、山陰海域から40日 (±22日)、石川県海域から35日 (±26日)。

^{*} 齋藤 私信

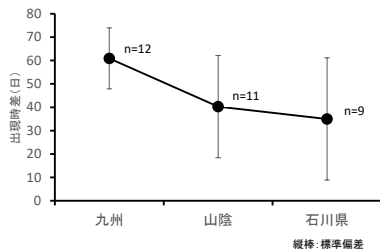


図3 本県沿岸と西方海域とのクラゲ出現時差

[その他]

研究課題名：大型クラゲ被害防止緊急総合対策事業

予算区分：受託

研究期間：令和3年度（平成21年度～）

研究担当者：平野 央、菊地 芳直、齋藤 克弥（一般社団法人 漁業情報サービスセンター）

発表論文等：なし